

授業名	ジェンダー論u			開講学年	2・3・4回生	単位数	2単位	
英文名	Gender Studies			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	斧出 節子			対象学生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生			
授業の概要	<p>「女性である」「男性である」ということは、あまりに当たり前すぎて日常的に意識化されないことが多い。しかし、人は生まれた瞬間から女性または男性いずれかのカテゴリーに入れられ、文化的・社会的にふさわしい行動が期待される。本講義ではまず、どのような過程を経て、女性、男性になっていくのかを「社会化」という点からとらえ、「ジェンダー（文化的・社会的性差）」を相対化することを試みる。そして、現実の生活の中でジェンダーがどのように機能し、どのような課題を含んでいるのかを探っていく。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 現代社会におけるジェンダー差が意味するものについて意見を持つことができる。 2) 自分自身、今後開発すべき能力は何かを理解することができる。</p>							
評価方法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (積極的な授業態度)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	『女性学・男性学 ジェンダー論入門』伊藤公雄ほか(有斐閣アルマ)							
参考書	『初めて学ぶジェンダー論』伊田広行 著(大月書店)、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子ほか編著(ミネルヴァ書房)、『ジェンダー論をつかむ』千田有紀ほか著(有斐閣)、『未来をひらく男女共同参画 - ジェンダーの視点から』西岡正子編(ミネルヴァ書房)ほか、随時紹介する。							
留意事項	遠くの誰かの問題ではなく、自分自身の問題として考えてください。ディスカッションも行き、受講者は授業への積極的な参加が求められます。							
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください							

授 業 名		ジェンダー論u	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	セックスとジェンダーの違い	(内 容) 概念説明 (必要な準備) シラバスを読んでおく。	
第2回	「らしさ」とは何か	(内 容) 男らしさ、女らしさについて考える。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第3回	男女二分法について	(内 容) 二つに分けることはどういうことかを学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義について復習すること。(30分)	
第4回	性における多様性：性の複数の次元	(内 容) 性の複数の次元について学ぶ。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第5回	性における多様性：性の少数派	(内 容) 性の少数派について理解する。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第6回	文化とジェンダー	(内 容) 文化によるジェンダーの違いを学ぶ。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第7回	幼児期の性の社会化	(内 容) 親と子どもの相互作用について学ぶ。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第8回	シンデレラとジェンダー	(内 容) 映像を分析する。 (必要な準備) グリム童話について調べておくこと。(30分)	
第9回	メディアがジェンダーに与える影響	(内 容) メディアが与える影響について考える。 (必要な準備) 課題レポートを作成しておくこと。(30分)	
第10回	教育とジェンダー：隠れたカリキュラム	(内 容) 隠れたカリキュラムについて理解する。 (必要な準備) 前回の授業内容をまとめておくこと。(30分)	
第11回	教育とジェンダー：隠れたカリキュラムの実態	(内 容) 自分の経験をもとに、隠れたカリキュラムの実態について考える。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第12回	デートDVとジェンダー	(内 容) デートDVの実態とメカニズムを学ぶ。 (必要な準備) 前回の授業内容をまとめておくこと。(30分)	
第13回	男女雇用機会均等法	(内 容) 男女雇用機会均等法の成立過程とその内容について学ぶ。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第14回	男女共同参画社会をめざして	(内 容) 各領域でのジェンダー平等の実態について学ぶ。 (必要な準備) 前回の授業内容をまとめておくこと。(30分)	
第15回	まとめ	(内 容) これまでのまとめと今後の課題を学ぶ。 (必要な準備) 疑問点をまとめておくこと。(30分)	

授業名	人間福祉論			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Human Welfare			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	藤井 伸生			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	現代社会における人間のくらしの実態を明らかにしながら、総合的体系的な生活保障を検討しつつ、社会福祉の役割について考える。生活問題の構造把握をもとに、社会福祉の果たす役割について検討する。生活問題対策として社会政策及び公共一般施策の役割も視野に入れながら社会福祉の位置と役割を考察する。							
学習成果到達目標	1) 私たち人間のくらしにおいて総合的体系的な生活保障を理解できるようになる。 2) 社会福祉が果たしている役割について理解できるようになる。 3) これからの人生において社会福祉がいかに関わるかを理解できるようになる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (論理的な展開力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	『生活問題と社会保障・社会福祉の基本資料集』高菅出版、2014年。							
参考書	授業時に紹介							
留意事項	ノートをしっかり取ること。							
オフィス アワー	設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にEメールしてください。							

授 業 名	人間福祉論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	社会福祉の対象理解	(内 容) 生活問題の構造把握について (必要な準備) 暮らしの実態について考える(30分)
第2回	生活問題の構造	(内 容) 生活問題の構造と社会福祉の関係 (必要な準備) 生活問題について考える(30分)
第3回	総合的体系的な生活保障とは？	(内 容) 総合的体系的な生活保障について (必要な準備) 教科書第2章を読んでおく(30分)
第4回	総合的体系的な生活保障 - 労使関係制度と社会福祉 -	(内 容) 労使関係制度の内容と課題について (必要な準備) 労使関係制度と社会福祉との関連考察(30分)
第5回	総合的体系的な生活保障 - 雇用保障制度と社会福祉 -	(内 容) 雇用保障制度について (必要な準備) 家族の雇用実態を知る(30分)
第6回	総合的体系的な生活保障 - 労働者保護制度と社会福祉 -	(内 容) 労働者保護制度について (必要な準備) 家族の労働条件について知る(30分)
第7回	総合的体系的な生活保障 - 育児・介護休暇と社会福祉 -	(内 容) 育児・介護休暇制度について (必要な準備) 家族の育児・介護休暇制度を知る(30分)
第8回	総合的体系的な生活保障 - 最低賃金制度と社会福祉 -	(内 容) 最低賃金制度について (必要な準備) 家族の賃金について知る(30分)
第9回	総合的体系的な生活保障 - 年金保険制度 -	(内 容) 年金保険制度について (必要な準備) 高齢者に年金のことについて聴く(30分)
第10回	総合的体系的な生活保障 - 医療保険制度 -	(内 容) 医療保険制度について (必要な準備) 医療機関での実情を考える(30分)
第11回	総合的体系的な生活保障 - 介護保険制度 -	(内 容) 介護保険制度について (必要な準備) 高齢者に介護保険のことについて聴く(30分)
第12回	総合的体系的な生活保障 - 雇用保険と社会福祉 -	(内 容) 雇用保険について (必要な準備) 失業している(した)人を探し、実情を聞く(30分)
第13回	総合的体系的な生活保障 - 教育・医療・保健と社会福祉 -	(内 容) 教育・医療・保健について (必要な準備) 教育・医療・保健に関して実情を考える(30分)
第14回	総合的体系的な生活保障 - 住宅・生活環境施設と社会福祉 -	(内 容) 住宅・生活環境施設について (必要な準備) 住宅・生活環境施設について近隣の実情を考える(30分)
第15回	社会福祉の課題 - 財政問題を中心に -	(内 容) 社会福祉の財政問題について (必要な準備) 政府予算に目を向け考察する(30分)

授業名	健康マネジメント			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Health Management			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	竹市 仁美			対象学生	現代家政2回生			
授業の概要	生涯を通じて健康なからだところを維持することは、人生をより豊かにするために重要である。講義・ワーク形式の授業を通して、健康に影響を及ぼすさまざまな要因について、さらに健康日本21のような日本の健康保持・増進のための施策について理解を深め、健康を管理するために必要となる基礎知識とスキルについて学ぶ。また、知識の修得に留まらず自ら実践する力を養っていくことも目標とする。さらに、主要な疾病について学び、これらの疾病の予防についても理解し、実際に役立てていくよう努める。							
学習成果到達目標	1) 生活習慣病の背景要因を理解する。 2) 特に若年女性の健康問題について理解する。 3) 健康増進の実践方法を修得する。							
評価方法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テキスト	日本健康マスター検定 公式テキスト (NHK出版)							
参考書	使用しない。							
留意事項	予習、復習を必ず行うこと。							
オフィス アワー	初回の授業で連絡します。							

授 業 名		健康マネジメント	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	「健康」とは何か	(内 容) 健康とは何かを改めて考えます (必要な準備)	
第2回	「健康リテラシー」を高めよう	(内 容) 日本人の健康事情、健康日本21、健康増進法を学ぶ 健康情報の信頼性について考える (必要な準備) テキストP.8～16を読んでおくこと	
第3回	食生活と健康 「塩分について」 「食品の種類について」	(内 容) 適切な塩分についての理解を深める 特定保健用食品など、市場に出回る食品のただし表示の見方を学ぶ (必要な準備) テキストP.18～25を読んでおくこと	
第4回	食生活と健康 「エネルギー摂取について」	(内 容) 気になる食事のエネルギーのポイントを学ぶ (必要な準備) テキストp.26～47を読んでおくこと	
第5回	食生活と健康 「どのように食べますか」	(内 容) 必要な食事量と栄養素の関係について学ぶ (必要な準備) テキストp.38～47を読んでおくこと	
第6回	嗜好を見直す 「飲酒や喫煙」	(内 容) 人の嗜好の実態について考える (必要な準備) テキストP.56～63を読んでおくこと	
第7回	身体活動と健康	(内 容) 日常動作が健康に及ぼす影響について考えます (必要な準備) テキストP.64～79を読んでおくこと 動きやすい服装	
第8回	運動と健康づくり	(内 容) 健康づくりに役立つ運動について学ぶ (必要な準備) テキストP.80～93を読んでおくこと 動きやすい服装	
第9回	睡眠と健康	(内 容) 睡眠が持つ重要な意味を学び、良い睡眠を実践できるようにする (必要な準備) テキストP.94～105を読んでおくこと	
第10回	心の健康と栄養	(内 容) ストレスに負けない体をつくる要因について考える (必要な準備) テキストP.106～119を読んでおくこと	
第11回	疾病の予防	(内 容) 疾病の一次予防から3次予防について学ぶ (必要な準備) テキストP.120～133を読んでおくこと	
第12回	女性の健康	(内 容) ライフステージと女性の健康について学ぶ (必要な準備) テキストP.152～169を読んでおくこと	
第13回	家族の健康	(内 容) ロコモ、低栄養など家族を見守る視点について学びます (必要な準備) テキストP.134～151を読んでおくこと	
第14回	注意が必要な感染症	(内 容) 感染症を予防するための知識について学びます (必要な準備) テキストP.170～191を読んでおくこと	
第15回	まとめと発表	(内 容) 自らの健康を支える方法について意見を述べ合う (必要な準備)	

授 業 名	比較家族論			開 講 学 年	2回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Comparative Study of Family			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	秋山 裕之			対 象 学 生	現代家政2回生			
授業の概要	<p>一口に家族といってもそのありようは様々であり、社会・文化・宗教によって多様な形態をとる。本講義では「子を育て、生をつなぐための、親族を基盤とした社会的装置」として家族を位置づけ、世帯レベルだけでなくそれを内包する親族集団をも射程にとらえて、多様な家族像を通文化的かつ人類史的に概観する。それらの多様性をふまえたうえで、現代日本における家族のありようの動態をとらえ、将来の日本の家族像を展望する。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 文化・地域・歴史などにより家族は多様であることを学び、家族の形と社会のあり方の関係を理解する。 2) 子を育てる社会的装置としての機能に注目し、日本の家族が抱える問題について考える。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	使用しない。プリントを配布する。							
参 考 書	授業中に適宜紹介する。							
留 意 事 項	受講生による討論を行います。積極的に発言してください。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。							

授 業 名		比較家族論	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	家族とは何か～はじめに	(内 容) 家族の定義について考える (必要な準備) 「家族とは何か」について考えておく(30分)	
第2回	家族の起源	(内 容) 霊長類の社会集団 (必要な準備) 資料を読んでおく(30分)	
第3回	アフリカ狩猟採集民 1	(内 容) ブッシュマンの家族と親族集団 1 (必要な準備) 資料を読んでおく(30分)	
第4回	アフリカ狩猟採集民 2	(内 容) ブッシュマンの家族と親族集団 2 (必要な準備) 資料を読んでおく(30分)	
第5回	東アフリカ牧畜民	(内 容) 東アフリカ牧畜民の家族と親族集団 (必要な準備) 資料を読んでおく(30分)	
第6回	アフリカ農耕民	(内 容) アフリカ農耕民の家族と親族集団 (必要な準備) 資料を読んでおく(30分)	
第7回	極北インディアン	(内 容) ヘヤー・インディアンにおける家族 (必要な準備) 資料を読んでおく(30分)	
第8回	イスラム圏	(内 容) イスラム教圏における家族 (必要な準備) 資料を読んでおく(30分)	
第9回	西洋	(内 容) 西洋キリスト教社会における家族 (必要な準備) 資料を読んでおく(30分)	
第10回	タイ	(内 容) 仏教圏の家族 (必要な準備) 資料を読んでおく(30分)	
第11回	韓国	(内 容) 家父長制と儒教理念 (必要な準備) 資料を読んでおく(30分)	
第12回	一妻多夫	(内 容) 一妻多夫性の家族 (必要な準備) 資料を読んでおく(30分)	
第13回	多様な家族：家族と社会の関係	(内 容) 家族と社会の関係・日本の家族 (必要な準備) 討論に備えて自分の考えをまとめておく(30分)	
第14回	子を育てる社会的装置	(内 容) 子育ての比較文化論 (必要な準備) 討論に備えて自分の考えをまとめておく(30分)	
第15回	家族とは何か～おわりに	(内 容) 授業をふまえて家族について考える (必要な準備) 討論に備えて自分の考えをまとめておく(30分)	

授 業 名	循環型社会論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Theory of Resource-circulating Society			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政1回生			
授業の概要	<p>今日、私たちは、多くのモノを生産、消費しながら生活している。そのような私たちの生活が自然の循環システムに乗っている状況では、問題は生じていなかった。ヒトは自然の循環システムに乗らなくなったモノを作り出し、私たちは、廃棄物が大量に発生する状況に置かれている。このように自然に再生されない資源を私たちが多量に消費し続ける状況を脱するために、私たちの社会そのもののありかたを転換しなければならない。その転換の道筋が循環型社会とされているが、その具体的な姿はまだ見えてきていない。授業では循環型社会の形成における課題について、その入門編を目指します。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 物事を観察する力を身につけ、環境問題に関して自分の日常生活と結びつけながら、循環型社会のありかたについて「自分なり」に客観的に捉えて分析して行くことを試みられる力を身につけることができるようになる。 2) 現代のライフスタイルを客観的に見るようになる。 3) 環境に関するデータを読むことができるようになる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力)	課題発見・解決能力 ()
テ キ ス ト	授業時に資料を配布します。							
参 考 書	『環境の社会学』、関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求、有斐閣アルマ、『サステナビリティ学 資源利用と循環型社会』、小宮山宏・武内和彦・住 明正・花木啓祐・三村信男、東京大学出版会							
留 意 事 項	日常生活においても、資源のリサイクルの取り組みなどに注目し、授業で習ったことを、実際に日常の出来事に適用・応用し、授業中課題（ミニツツペーパー）にも、その成果を出せるようにする。（授業の進展度合いにより予定の変更もある）							
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。							

授 業 名		循環型社会論
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業の内容と進め方について説明します。 (必要な準備)
第2回	環境問題の社会史 -産業公害から高速交通公害	(内 容) まず、環境問題の社会史を見ていき、資源循環型社会が求められる要因を考察していきます。 (必要な準備) 自分の身の回りにおいて生じている環境問題を整理してください(60分)。
第3回	環境問題の社会史 -生活公害から地球環境問題	(内 容) 現代における環境問題を説明します。 (必要な準備) 現代では、どのような環境問題が起こっているのか、自分で整理してみてください(60分)。
第4回	開発と環境問題の歴史	(内 容) 今から半世紀前から始まった高度経済成長以前の開発による環境問題について考察します。 (必要な準備) 現代のライフスタイルの中で、何が環境問題の原因となっているのか整理してみてください(60分)。
第5回	開発と環境問題の歴史	(内 容) 高度経済成長期以降の開発による環境問題を考察していきます。 (必要な準備) 授業で習ったことを適用・応用し、環境問題のとらえ方について考察してみてください(60分)。
第6回	開発と環境問題の現状	(内 容) 開発による環境問題の現状について説明します。 (必要な準備) 授業で習ったことを適用・応用し、現在の環境問題へと至ったプロセスについて整理してみてください(60分)。
第7回	地球環境問題	(内 容) 地球環境問題の概要について説明します。 (必要な準備) 地球温暖化に関する新聞や雑誌の記事を収集してください(60分)。
第8回	地球環境問題	(内 容) 地球環境問題の特徴について説明します。 (必要な準備) 授業で習ったことを適用・応用し、これまでの環境問題と地球環境問題との違いについて考察してみてください(60分)。
第9回	リスク社会	(内 容) 近年議論されている科学技術の発展と自然環境の問題におけるリスクについて説明します。 (必要な準備) 原発の問題に関する新聞や雑誌の記事を収集してください(60分)。
第10回	科学技術の発展と自然環境問題の特徴	(内 容) 科学技術の発展と環境問題との関係の特徴について説明します。 (必要な準備) 自分の日常生活を振り返って、科学技術と環境の問題について整理してください(60分)。
第11回	循環型社会への取組 --生活様式の転換	(内 容) 循環型社会に向けた生活様式の転換について考察します。 (必要な準備) 自分の生活様式(ライフスタイル)を振り返りながら、「ごみ」をどのくらい出しているのか、消費のありかたについて整理してみてください(60分)。
第12回	循環型社会への取組 -自然と社会をデザインする。	(内 容) 生物多様性の問題について考察します。 (必要な準備) 生態系の問題について調べてきてください(60分)。
第13回	循環型社会への取組 -コウノトリの野生復帰	(内 容) 豊岡市の事例について考察します。 (必要な準備) 生態系の再生に関する新聞や雑誌の記事を収集してきてください(60分)。
第14回	効率よいエネルギー利用とは	(内 容) 効率よいエネルギー利用について考察します。 (必要な準備) 省エネなど自分の日常生活において、どのようなことが実践できるのか考えてみてください(60分)。
第15回	循環型社会の形成に向けて	(内 容) 総括として、循環型社会の形成に向けた課題について考察します。 (必要な準備) 授業で習ったことを適用・応用し、自分なりに循環型社会の形成に向けた課題について考察してみてください(60分)。

授業名	ターミナルケア論u			開講学年	4回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Terminal Care			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	野田 隆生			対象学生	現代家政4回生			
授業の概要	<p>私たちは、この世に生を受けた瞬間からすでにあの世（死）へと向かう存在となっている。本講では、現代社会における誕生と死の実態を起点に、ターミナル・ケアのありようについて学んでいく。さらに、生殖補助医療や安楽死などについて正しく理解し、それに対応できるような事例を取り上げながら、その課題について考察を深めていく。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 現代社会における誕生と死の実態について説明することができる。 2) 全人的な痛みの背景について説明することができる。 3) 「ターミナル・ケア」「ホスピス」「ピハーラ」「PCU」等の用語について理解し、説明ができる。</p>							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	使用しない。配布資料あり。							
参考書	杉本一義著『人生福祉の根本問題 苦難と援助の人間学』彩流社、小畑万里編著『地域・施設で死を看取るとき いのちと死に向き合う支援』明石書店、垂水雄二著『生命倫理と環境倫理 生物学からのアプローチ』八坂書房、マリ・ロイド編、若林佳史訳『緩和ケアにおける心理社会的問題』星和書店、宮川俊行著『安楽死の論理と倫理』東京大学出版局、中澤正夫著『死のメンタルヘルス 最期に向けての対話』岩波書店、香西豊子著『流通する「人体」 献体・献血・臓器提供の歴史』勁草書房、吉武久美子著『医療倫理と合意形成 治療・ケアの現場での意思決定』東信堂							
留意事項	安直な動機での履修は歓迎しない。問いかけに対して自ら問題意識をもつように心がけること。グループもしくはペアワークを取り入れながら、学生の意見を基調に進めていく。							
オフィスアワー	授業初回時に連絡をします。 基本的に研究室に在室していれば対応をします。また、急な質問等については学内E-mailを利用して下さい。							

授業名	ターミナルケア論 u	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに ～「死」とは何なのか？～	(内 容) 講義の進め方、成績評価の方法について解説した後、「死」に関する意識調査アンケートを行う。 (必要な準備) シラバスから学びの道筋をイメージしておく。(30分)
第2回	現代社会における誕生と死	(内 容) 統計資料に基づく誕生と死の現状を把握し、社会とのつながりについて学ぶ。 (必要な準備) 『国民の福祉と介護の動向』を閲覧しておく。(60分)
第3回	社会問題としてのターミナル・ケア	(内 容) ターミナル・ケアが社会問題となっている背景について学ぶ。 (必要な準備) 『国民衛生の動向』を閲覧しておく。(60分)
第4回	ターミナル・ケアの歴史 ～ホスピス・PCUの成立過程～	(内 容) ターミナルケアの歴史をその語源よりたどりながら、ホスピスならびにPCUへと変遷する過程について学ぶ。 (必要な準備) 紹介した書籍を読む。(90分)
第5回	ターミナル・ケアの歴史 ～ビハーラの誕生と成立過程～	(内 容) 仏教を基盤としたターミナル・ケアの成立過程について学ぶ。 (必要な準備) 紹介した書籍を読む。(90分)
第6回	ホスピス病棟の紹介 ～遺族へのケアについて～	(内 容) 遺族へのケアについて映像を通じて理解する。 (必要な準備) 紹介した書籍を読む。(60分)
第7回	死にゆく人の「苦しみ」と「痛み」 ～心理的・社会的ニード～	(内 容) 全人的痛みの理解とその援助について事例を通じて学ぶ。 (必要な準備) 紹介した書籍を読む。(60分)
第8回	死にゆく人の「苦しみ」と「痛み」 ～スピリチュアルニード～	(内 容) 全人的痛みの理解とその援助について事例を通じて学ぶ。 (必要な準備) 紹介した書籍を読む。(60分)
第9回	ビハーラ病棟の紹介 ～患者からの最期のことば～	(内 容) 映像を観て、シートに記録する。 演習形式 (必要な準備) 紹介した書籍を読む。(45分)
第10回	ビハーラ病棟の紹介 ～痛みからの解放～	(内 容) 映像を観て、シートに記録する。 演習形式 (必要な準備) 紹介した書籍を読む。(45分)
第11回	宗教者の役割について ～ビハーラ僧の場合～	(内 容) 映像と事例を通じて解説を行う。 (必要な準備) 紹介した書籍を読む。(45分)
第12回	MSWの役割と機能について	(内 容) MSWの事例紹介を通じて、ターミナル・ケア期における福祉援助の基礎について学ぶ。 (必要な準備) 紹介した書籍を読む。(60分)
第13回	生死をめぐる課題 ～生殖補助医療とその課題～	(内 容) 生殖補助医療の現状と代理出産の現実から、主題に迫っていく。 資料をよく読み込んだ上でディスカッションを行う。 (必要な準備) 生殖補助医療や代理出産について調べておく。(60分)
第14回	生死をめぐる課題 ～安楽死と尊厳死～	(内 容) 安楽死と尊厳死の違いを理解し、現場にて齟齬なく援用できるようになることの必要性を事例を通して学ぶ。 資料をよく読み込んだ上でディスカッションを行う。 (必要な準備) 安楽死・尊厳死・脳死・臓器移植について調べておく。(60分)
第15回	まとめにかえて ～「生ききる」ことを支えるケアとは～	(内 容) 「生ききる」ことを支えるケアについて考える。 (必要な準備) これまでの学びについて各回の要点を押さえておくことと、配布資料に目を通しておくこと。(30分)

授業名	家庭経済学			開講学年	2回生	単位数	2単位
英文名	Home Economics			開講時期	秋学期	必修・選択	選択
担当者	足立 正樹			対象学生	現代家政2回生、食物栄養2回生		
授業の概要	<p>金銭で表わされる家庭の収入・支出関係を家計というが、ここで学ぶ家庭経済はこの家計よりも広い概念である。まず、生活経済システムの中で家庭経済はどのように位置づけられ、他のシステムとどのように関連しているのかを学ぶ。そしてさらに家計や家計費の構造、個人と家計の関係はどのようになっているのかを理解する。講義形式の授業を通して、多様化する個人の価値観やライフスタイルの変化も視野に入れながら、制度やシステムの課題にもアプローチしていく。</p>						
学習成果到達目標	<p>1) 家庭経済の基本的事実と経済システムとの関連についての基礎的知識を習得する。 2) 家庭経済が果たしている機能を理解する。</p>						
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)		
テキスト	使用しない。						
参考書	使用しない。						
留意事項							
オフィス アワー	担当授業の前後に行う。						

授 業 名		家庭経済学
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	家庭経済の概念	(内 容) 家庭経済とは何か (必要な準備) 家庭経済という言葉の意味を調べておく。
第2回	家庭経済と経済学	(内 容) 経済学はどのような学問か (必要な準備) 経済学の考え方を理解しておく。
第3回	近代化と生活の変化	(内 容) 「近代」という時代の特徴 (必要な準備) 「近代」について調べておく。
第4回	市場システムの特徴	(内 容) 市場とはいかなるシステムでどのような役割を果たしているか (必要な準備) 物の価格がどのように決められているか考えてみる。
第5回	市場の機能条件	(内 容) 市場が適切に機能するためにはいかなる条件が必要か (必要な準備) 完全競争について調べておく。
第6回	市場の失敗	(内 容) 市場はいかなる限界をもっているか (必要な準備) 市場の失敗とはどのようなことが調べる。
第7回	消費行動の経済分析(1)	(内 容) 消費の目的は何か (必要な準備) 自分が物やサービスを購入するときの目的を考えてみる。
第8回	消費行動の経済分析(2)	(内 容) 個々の財の消費はどのように決定されるか (必要な準備) 自分が物やサービスの購入において考慮する項目・条件についてまとめておく。
第9回	勤労行動の経済分析(1)	(内 容) 労働供給はどのように決定されるか (必要な準備) 働く目的にはどのようなものがあるかを調べる。
第10回	勤労行動の経済分析(2)	(内 容) 労働・自由時間はどのように決定されるか (必要な準備) 労働時間の推移を調べる。
第11回	家庭経済と無償労働	(内 容) 無償労働は如何なる役割を果たしているか (必要な準備) 無償労働にはどのようなものがあるか考えてみる。
第12回	家庭経済と少子化問題	(内 容) 無償労働としての育児活動の困難 (必要な準備) 育児活動の困難を調べる。
第13回	少子化と年金問題	(内 容) 年金制度が少子化を促進する (必要な準備) 少子化と年金のかかわりを調べておく。
第14回	高齢化と家庭経済	(内 容) 高齢者介護にはいかなる方式が適しているか (必要な準備) 介護の諸方式を調べておく。
第15回	家庭経済の展望	(内 容) これからの家庭経済はいかにあるべきか (必要な準備) 家庭経済のあるべき姿を考えておく。

授業名	ボランティア論u			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Volunteer			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	名賀 亨			対象学生	現代家政1回生			
授業の概要	人間性豊かな福祉社会を創出するためには市民の主体的な社会参加・参画が不可欠である。そうした視点から注目されているボランティア・市民活動について、理論と実践事例などを交えながらその全体像を理解する。							
学習成果到達目標	1) ボランティア活動の根本にあるボランティアの原理を理解し説明できる。 2) ボランティア・市民活動の歴史の変遷を理解することができる。 3) ボランティア・市民活動の基本を理解することで、専門職と市民との協同のあり方、それに伴うボランティアコーディネートの必要性とその方法について具体的に理解できる。							
評価方法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力) (課題発見・解決能力)			
テキスト	ボランティア論 - 「広がり」から「深まり」へ - 編著者：柴田謙治・原田正樹・名賀亨 出版社：株式会社みらい							
参考書	学生のためのボランティア論 岡本栄一、菅井直也、妻鹿ふみ子 編 大阪ボランティア協会出版部 発行							
留意事項	常に新聞等から社会情勢の変化を読み取り、ボランティアとの関連性について考えておく。また、授業には主体的かつ積極的に参加し、講義内容を整理し必要に応じてプレゼンテーションできるようにする。							
オフィスアワー	水曜日 昼休み							

授 業 名		ボランティア論 u
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題
第1回	オリエンテーション	(内 容) 授業の枠組みや授業評価など、授業の全体像を説明 (必要な準備) シラバスを確認するとともに、自分なりにボランティアの意味を整理しておく。(30分)
第2回	ボランティア活動の基本 自発性・社会性	(内 容) ボランティア活動の基本としてある、自発性、社会性、開拓性などの意義について学ぶ。 (必要な準備) さまざまな実践を事例としてボランティア活動の根本の意味を整理しておく。(30分)
第3回	ボランティア活動の基本 根本にある思想	(内 容) ボランティア活動の原点にある「ボランタリズム」の精神について、その考え方や意味、社会との関係性について学ぶ。 (必要な準備) ボランティア活動の基本である自発性・主体性の意味を整理しておく。(30分)
第4回	ボランティア活動の基本 活動の歴史	(内 容) ボランティア・市民活動の歴史的な移り変わりを、社会の変遷と対比しながら学ぶ。 (必要な準備) 社会状況の変化とボランティア活動の変遷についてボランタリズムとの関係性から整理しておく。(30分)
第5回	ボランティア活動の変遷 活動支援の広がり 1	(内 容) 全国各地にある社会福祉協議会に設置されているボランティアセンターでのボランティア活動支援の始まりと事業の変遷について学ぶ。 (必要な準備) 徳島県で始まった善意銀行について整理しておく。(30分)
第6回	ボランティア活動の変遷 活動支援の広がり 2	(内 容) 社会福祉協議会とは別に、全国各地にある民間のボランティア活動支援センターの変遷について学ぶ。 (必要な準備) 大阪ボランティア協会など、社会福祉協議会とは違う位置からのボランティア活動支援について整理しておく。(30分)
第7回	ボランティア活動の変遷 ボランティア元年といわれた1995年以降	(内 容) ボランティア・市民活動の歴史の中で阪神淡路大震災でのボランティア活動が、NPO法の成立につながるなど一つの大きな転換期になったことについて、その具体的な内容と意味について学ぶ。 (必要な準備) 阪神淡路大震災時にボランティアがどのような活動を実践したのか整理しておく。(30分)
第8回	災害とボランティア活動 災害ボランティア支援	(内 容) 災害時のボランティア活動支援に不可欠な災害ボランティアセンターの役割と意義について学ぶ (必要な準備) 阪神淡路大震災・東日本大震災など大災害時にボランティア活動支援がどのように行われたのか整理しておく。(30分)
第9回	ボランティア学習の理解 ワークキャンプ運動	(内 容) 国内外で様々な形で実践されているワークキャンプ運動を事例に、その内容や実践の意味、今後の必要性和可能性について学ぶ。 (必要な準備) ワークキャンプの意味について整理しておく。(30分)
第10回	ボランティア学習の理解 活動と学び	(内 容) ボランティア活動に内在する学びに関して、ボランティア学習という観点からその意味について学ぶ。 (必要な準備) ボランティア学習の概念を整理しておく。(30分)
第11回	ボランティア学習の理解 学びの実践事例	(内 容) ボランティア活動に内在する学びに関して、DVDなどの教材視聴を通して理解し、それぞれの可能性や学習効果について学ぶ。 (必要な準備) ボランティア活動を通じた学びについて、実践事例からその実践学習の現状を整理しておく。(30分)
第12回	ボランティアコーディネート つなぐ仕組み	(内 容) ボランティア活動実践に不可欠なボランティアコーディネートの意味やその方法などの基本を学ぶ。 (必要な準備) ボランティアコーディネート意味を整理しておく。(30分)
第13回	ボランティアコーディネート 役割とその内容	(内 容) ボランティアコーディネートを実践するボランティアコーディネーターの役割や活動の特徴について学ぶ。 (必要な準備) ボランティアコーディネートの専門性について整理しておく。(30分)
第14回	ボランティアの可能性と展望 福祉の原点	(内 容) ボランティア・市民活動さらにNPOなどの今後の社会的な可能性について学ぶ。 (必要な準備) これまでの授業内容を振り返り、これからのボランティア活動の在り方について整理しておく。(30分)
第15回	まとめ	(内 容) 全体の総括をしながら、今後のボランティア・市民活動の在り方を考えていく。 (必要な準備) 授業全体を踏まえて今後の展望について整理しておく。(30分)